

特集
3

南海グループの生物多様性保全

ーパークスガーデンがなんばのまちの生物多様性に貢献ー

南海沿線は、大和川や紀ノ川を始め大小さまざまな川が平野部を流れ、西は大阪湾に面し、東は和泉葛城山系ほか豊かな山々に囲まれたエリアまで、多様な魅力を持つ地域が集まっています。この豊かな自然環境は、多様な生物種とそれらが生息するさまざまな生態系の存在に支えられており、当社グループの経営資本の一つを構成しています。

当社グループでは、生物多様性保全を環境課題の重点項目に位置づけ、あらゆる事業活動の中で生物多様性への影響を回避もしくは最小化することを意識し、沿線における生態系の維持と持続可能な自然資源の利用の実現を目指しています。

本特集では、その代表事例として、なんばのまちの生物多様性に貢献する「パークスガーデン」の取り組みをご紹介します。

■ 基本方針、取り組み概要

当社は、2017年に環境方針を改正し、生物多様性の項目を追加するとともに、「生物多様性行動指針」を制定しました。また、2023年には「おおさか生物多様性応援宣言」および「経団連生物多様性宣言」に賛同、2024年には「生物多様性のための30by30アライアンス」および「TNFDフォーラム」に参画しました。



当社は、地域の生物多様性保全に関して、さまざまな形で継続的に取り組んでいます。特に、「パークスガーデン」「なんかいの森」「多奈川ピオトープ」での活動に力を入れています。

■ パークスガーデンの取り組み

パークスガーデンは、なんばの中心的な複合商業施設であるなんばパークスの屋上公園です。2Fから9Fまで、段丘状の建物の屋上部分に連続して広がる11,500m²ものガーデンであり、うち緑地面積は5,300m²に及びます。さまざまな植物に彩られたガーデンの美しさや、生態系に配慮した丁寧な管理運営などが認められ、約20年前の開業当初から今日に至るまで、各所から多数の表彰・認定を受けています。

2022年度から2023年度にかけ、パークスガーデンにおける生物調査を、社外専門家を招き実施しました[※]。2年に及ぶ調査の結果、私たちのガーデンが、多様な鳥類や昆虫類が生息する豊かな緑地へと成長していることを確認できました。

※ (株)大林組と共同研究

開設経緯ー

なんばのまちの真ん中に「本物の森」をつくる

1995年、「難波地区再開発計画」が本格的に始まりました。当社グループが絶大な期待と意気込みをもって取り組んだ、この一大プロジェクトの核となったのが、大規模・複合商業施設のなんばパークスであり、2003年に開業しました。

当時の開発会議でよく話題になったキーワードが、「持続可能なまちづくり」であり、その象徴がパークスガーデンでした。なんば周辺は、もともと緑地に乏しいエリアだったこともあり、日本最大級の屋上公園であるパークスガーデンの存在感は大きく、なんばのまちの雰囲気を変えました。



ガーデンは、切り離された存在ではなく、屋内店舗と一体化しています。上層階では、空や風、日差しといった自然の恵みを緑とともに感じることができます。



パークスガーデンに直結するオフィス棟。2003年の開業を機に、なんばエリアにおける当社のオフィス事業は大きく拡大しました。

南海グループの生物多様性保全に向けた継続的な取り組み

なんかいの森

当社は、奈良県吉野郡十津川村に約520haの山林(人工林約300ha、天然林ほか約220ha)を有しています。1977年ごろからスギ・ヒノキの植林を開始し、計画的な植林、施業(枝打ち・間伐)などを行い、防砂や水源保全、生物多様性の保全、CO₂の吸収などに貢献しています。また、役員・社員が参加する間伐ボランティア活動も2008年から実施しています。

2023年度は約18haの間伐を実施しました。

多奈川ピオトープ

当社は、2009年に大阪府と「グリーンパートナー協定」を、2014年に大阪府、岬町、大阪府立環境農林水産総合研究所と「おおさか生物多様性パートナー協定」を締結しました。その後、協働して関西国際空港二期土砂採取跡地である多奈川地区のピオトープで、自然空間の再生を目指して、池の管理や生き物観察などの環境保全活動を継続的に実施しています。

2023年度は10回の保全活動に参加しました。

生物調査結果ー

パークスガーデンが育む生物多様性

パークスガーデンでは、定期的に社外専門家による生物調査を実施しています。約10年ぶりとなる2回目の鳥類および昆虫の調査が2022年度から2023年度にかけて行われ、全国的に個体数の減少が危惧されているスズメの繁殖や、大阪府レッドリスト2014の準絶滅危惧(NT)であるトンボのマイコアカネが確認されるなど、パークスガーデンには多様な生物が生息し、繁殖していることが分かりました。

なんばは緑地に乏しいエリアであり、パークスガーデンの周辺、半径2km圏内には大阪を代表する天王寺公園、上町台地斜面樹林以外の大規模緑地はほとんどありません。そのため、鳥や昆虫が飛来できる緑地としてパークスガーデンが果たす役割は大きいといえます。さらに、ガーデン内の藪や水場などの多様な環境、中高木を含む約500種類10万株の豊富な植物、生物に配慮した長年の運営管理などが、生物多様性の保全に大きく貢献していると推察されます。

調査結果

パークスガーデンがあることで増加したと考えられる種



定量調査で確認された地域の鳥類16種のうち、近隣街路樹で確認されたのは5種のみでした。パークスガーデンがあることで、地域の鳥類が11種増加したと考えられます。その中には、都心では大規模緑地がないと現れない種も含まれています。

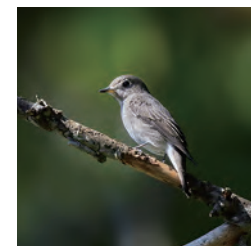
未来へー

「都心の森」をつないでいく

パークスガーデンではさまざまな植物や鳥、昆虫と身近に触れられることもあり、人々の憩いの場所となっています。子ども連れのファミリー、休憩中のオフィスワーカー、海外からの観光客など、幅広いお客さまが訪れるパークスガーデンの存在が、なんばのまちの魅力の一つとなっています。

私たちは、これまでの20年間と同様、これからも、なんばの都市の中で生息する多様な生き物がすみ続けることができる、本物の森に近い環境を守り、育み、まちの魅力向上に貢献していきます。

パークスガーデンで見られる希少種の例(鳥類)



コサメビタキ
Muscicapa dauurica

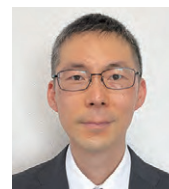


センダイムシクイ
Phylloscopus coronatus

- ・大阪府レッドリスト2014掲載種
- ・春と秋の渡りの時期に観察することができる



ステークホルダーの声



京都大学大学院
地球環境学 教授
博士(農学)
今西 純一 様

豊かな植栽と繊細な管理が創り出す人と生き物のための都心のオアシス

なんばパークス屋上のパークスガーデンでは、ゾーンごとに異なるテーマが設定されており、花や実、葉などに特徴のある多様な植物を楽しむことができます。木陰には休憩スペースが配置され、多くの人々に癒やしを与えています。このパークスガーデンを多くの野生生物も利用していることが2年間に及ぶ調査によって明らかになりました。花や実をつける多様な種類の植物が育ち、高木、低木、草本植物などさまざまな大きさや形の植物が導入されたパークスガーデンは鳥たちにも魅力的に見えているようです。絶滅が危惧されるトンボの1種、マイコアカネは植生豊かなパークスガーデンの水辺を見つけて飛来したのでしょうか。専属ガーデナーが鳥の餌になる虫を一部残すなど、生態系に配慮したきめ細かな管理作業も行われています。パークスガーデンは都心における気候変動対策や生物多様性保全の取り組みの見本となる好事例です。パークスガーデンのコンセプトが各地に広がり、多くの都市に緑のオアシスが創出されることに期待します。